

事例番号:350252

原因分析報告書要約版

産科医療補償制度
原因分析委員会第六部会

1. 事例の概要

1) 妊産婦等に関する情報

経産婦

2) 今回の妊娠経過

二絨毛膜二羊膜双胎の第1子

3) 分娩のための入院時の状況

妊娠 37 週 2 日 既往帝王切開のため帝王切開目的で入院

4) 分娩経過

妊娠 37 週 3 日

13:34 帝王切開により第1子娩出

13:37 第2子娩出

5) 新生児期の経過

(1) 在胎週数:37 週 3 日

(2) 出生時体重:3400g 台

(3) 臍帯動脈血ガス分析:pH 7.29、BE -3.6mmol/L

(4) Apgar スコア:生後 1 分 8 点、生後 5 分 9 点

(5) 新生児蘇生:実施なし

(6) 診断等:

生後 6 日 退院

生後 9 ヶ月 右上下肢の麻痺を認める

(7) 頭部画像所見:

生後 9 ヶ月 頭部 MRI で左大脳半球は右大脳半球より低形成、midline shift・左の脳室拡大、また左のシルビウス裂を深く認め、MRA にて

左中大脳動脈の描出が不明瞭の箇所を認める

6) 診療体制等に関する情報

(1) 施設区分: 病院

(2) 関わった医療スタッフの数

医師: 産科医 2 名、小児科医 1 名、麻酔科医 1 名、研修医 3 名

看護スタッフ: 助産師 1 名、看護師 2 名

2. 脳性麻痺発症の原因

(1) 脳性麻痺発症の原因は、児に左中大脳動脈領域の脳梗塞が発症したことによる梗塞性・虚血性の中樞神経障害であると考ええる。

(2) 脳梗塞の原因および発症時期は不明である。

3. 臨床経過に関する医学的評価 (2020 年 4 月改定の表現を使用)

1) 妊娠経過

妊娠中の管理は一般的である。

2) 分娩経過

(1) 妊娠 37 週 2 日の入院後から妊娠 37 週 3 日の帝王切開までの管理 (バックアップ測定、分娩監視装置装着、超音波断層法実施) は一般的である。

(2) 臍帯動脈血ガス分析を実施したことは一般的である。

3) 新生児経過

出生時の対応およびその後の新生児管理は、いずれも一般的である。

4. 今後の産科医療の質の向上のために検討すべき事項

1) 当該分娩機関における診療行為について検討すべき事項

胎盤病理組織学検査を実施することが望まれる。

【解説】胎盤病理組織学検査は、双胎の膜性を最終的に確認するうえで重要な情報が得られることがある。

2) 当該分娩機関における設備や診療体制について検討すべき事項

なし。

3) わが国における産科医療について検討すべき事項

(1) 学会・職能団体に対して

胎児期から新生児期に発症する脳梗塞の原因究明を推進することが望まれる。

(2) 国・地方自治体に対して

なし。